広島大学大学院教育学研究科紀要　第三部　第65号　2016　73－80

保育室における物的環境に関する研究

― 保育者による変化・維持に着目して ―

淀　澤　真　帆
（2016年10月６日受理）

Material Environment in a Kindergarten Classroom :
Changing and Maintenance of the Classroom Environment by Teachers

Maho Yodozawa

Abstract: The current study investigated the ways that kindergarten teachers change or maintain the environment in a classroom, and the relationship between their choices to do so. Specifically, we examined the way that teachers react to the surfaces of walls, picture book racks, and tatami corners which have tatami mats, a round table, sofas, and a play kitchen. Case study data were collected through photographs and observations of childcare in kindergarten classrooms. They were put in chronological order and qualitatively analyzed. The results revealed a range of visible and invisible ways that teachers changed or maintained their classroom environments. The data also revealed a relationship between the teachers' decision to change or maintain the classroom environment.

Key words: material environment, design of environment, change, maintain, classroom
キーワード：物的環境，環境構成，変化，維持，保育室

Ⅰ．問題と目的

保育における環境とは，子どもを取り囲み，なにがしかのかかわりのある世界のことである (小川2000)。わが国の保育は，子どもが自ら環境に接することが重要であるとされている (文部科学省2008，厚生労働省2008)。これを踏まえ保育者には，環境を工夫する視点が必要であり (小川2000)，子どもの活動の流れや心の動きに即した環境の構成や再構成が求められている (文部科学省2008)。

環境の構成・再構成に関する研究は，これまでにも多く蓄積されてきた。人的環境と物的環境に大別される保育環境 (由田2007) のうち，本研究の主題である物的環境を扱ったものとしては，例えば，乳児保育室における環境構成の変化によって，子どもの遊びに落ち着きや集中がみられるようになったとする研究や (汐見・村上・松永・保坂・志村2012)，保育室にある絵本コーナーの構成を変えることによって，子どもが友だちとコミュニケーションを取りながら絵本を読むようになるなど行動の変化を明らかにした研究 (山田2011) などである。また，西本・今井・木下 (2006) では，長期にわたる保育室の見取り図の比較検討から，物的環境の変化が子どもに与える影響について検討された。これらにおいて，環境の変化と子どもの変化，あるいは保育者の意識変容が共に検討されてきた。

しかし，上記の研究において，変化とともに見られるその周囲にある維持されている物的環境の状態については十分検討されていない。例えば山田 (2011) では，保育室内の絵本コーナーの環境構成がテーブルの増設や本棚の位置変更など6段階に分けて変化させられていた。この時，周囲の物的環境であるじゅうたんや一部の棚はそのままの状態，すなわち維持される状態にあるにもかかわらず，初期段階からあるものの内，何が残されていたのか，またなぜそれらには手が加え

られず維持されたのかという検討はなく，変化させたことによる子どもの行動への影響のみが論じられている。

実際，あるコーナー内で子どもの遊び方のバリエーションが広がったり，滞在時間が増えるようになり，しばらく様子を見るためにそのままの状態を維持する，という記録が残っていたり，図面や写真上で変化させられる物的環境の周囲も描かれていたりする (山田2011，汐見・村上・松永・保坂・志村2012，西本・今井・木下2006)。しかし，これらは考察や総括などで取り上げられるには至らず，変化する環境の周囲にある維持される物的環境の検討は捨象されている。

本研究では，先行研究で十分に検討されてこなかった，維持されることも含めた物的環境に着目する。その必要性は2点あると考える。

第一に，物的環境の変化を取り扱う研究において，「そのままにしている」「レイアウトを変えるようなことはしなかった」という記録が残っている (西本・今井・木下2006) ことからも分かるように，たしかに維持される環境があるものの，これらは十分に検討されてこなかった。ここに，保育者が意図を込めているにもかかわらず，研究は未着手である可能性があると考えられる。

第二に，環境を維持するということ自体，保育者にとっても当たり前の構成となっていて，当たり前であるほど重要な環境である，もしくは不要であっても気付いていない可能性がある。しかし，子どもをとりまく全ての状況が保育環境である (小川2000) ため，変化させられる環境も維持される環境も，それぞれ関連しつつ子どもに経験されているため，維持という側面についての検討が必要である。

以上の検討が必要であると考えられるため，その前段階として，まずは何が変化させられ，どれほど維持という環境があるのかと言うことを知る必要があるといえる。

以上を踏まえ本研究では，一定の期間において保育者によって保育室の環境がどのように変化させられ維持されるのかを明らかとすることを目的とする。

本研究における環境の変化とは，保育者によって物的環境の配置が変えられることや，新たな遊具や家具が保育室に取り入れられること，その環境の使われ方の変化など，「保育者によって手が加えられる前までとは異なる状態」となることを指す。子どもが物的環境の配置が変えることもあるが，本研究の目的に即して，保育者によって変えられることを指すものとする。

一方，環境の維持とは，保育者によって変化させられる物的環境の周囲にあるものであり，前述の変化が見出されないものを指す。

「環境」と一口に述べても，保育者や友達などの人的環境や，園舎や道具・遊具などの物的環境 (由田2007) に分類されるが，これまで述べてきたように，本稿では物的環境に焦点を当てて検討する。

以後「環境」とは，「物的環境」の略称として用い，本研究における「環境構成」とは，物的環境を構成・再構成すること，つまり物的環境を物理的に変化させることと物理的に維持させることの両方の側面を持つ作業のことを指す。

Ⅱ．研究対象と研究方法

(1) 対象とする環境

本研究では，保育者によって変化させられたり維持されたりする環境を明らかにすることから，保育室内において保育者が自らの手で動かすことのできる環境を対象とした。保育室内に限定したのは，保育室内は担当の保育者の意図が主に反映され環境が構成されるため，保育者がどのように環境を変化させ，維持しているのかの検討に適した空間だといえるからである。

また，保育者が動かすことのできる環境に限定したのは，保育室に付属している設備 (ex. トイレや洗面所) 以外は，保育室の担当保育者によって，動かすこともそのままにすることも可能であり，変化と維持が明確になると推測されたためである。

H 幼稚園を対象園に設定し，保育室内の環境の中から維持されると予測されるものを決定した。H 幼稚園は3歳 (年少)，4歳 (年中)，5歳 (年長)，と学齢ごとに1室ずつ保育室を有している。対象の決定にあたっては，表1に示したとおり，3・4・5歳児全ての保育室で子どもが保育室で過ごす時間の長さや物的環境の種類の多さ，数の多さに着目して予備観察を行った (2012年10月31日，11月15日)。

結果，保育室内の環境の中でも壁面，絵本棚，畳コーナーを対象とした (参考写真1～4参照)。理由は以下の4点である。第一に，データ収集開始時に，以後対象とする保育室を広げる可能性を残すために3・4・5歳児保育室全てに共通して有ったものである。

第二に，一日の保育の中で何度も変化させられるものでないと予測されたためである。予備観察の際，イスなどは一日の活動の中で何度か取り出されたり，片付けられたりするものであった。本研究では，ある一定の期間における物的環境の維持について検討することが目指されたため，検討し難い対象であった。

第三に，保育者によって変化させやすい環境であると考えたためである。壁面構成は展示物の貼り替え，

絵本棚では絵本の入れ替え，畳コーナーでは遊具の入れ替えなどの変化が頻繁にみられると予測した。これらのように変化が頻繁に見られる環境を対象にすることで，維持も顕著に現れると考えられた。

第四に，いずれの環境も，本園だけでなく，多くの幼稚園において同様のものがあると推測されたためである。壁面構成は，多くの保育者向け月刊誌等にはそのアイデアが毎月取り上げられたり特集号が組まれたりする (ex.『保育とカリキュラム』ひかりのくに株式会社)。絵本棚に関しては，絵本コーナーの変容に関する研究 (山田2011，2012) がある。畳コーナーは，家具やキッチン用品などがあるため，いわゆる「ままごとコーナー」と同様のものであり，ままごとコーナーに関する研究は蓄積されてきている (高橋・斎藤・岩田・関口1994，平賀・平野2005，平嶋2013)。なお，本園では必ずしもままごとをするためだけのコーナーではないと思われるため，本稿においては畳コーナーと称することとした。

上記4点から，本研究において3つの対象を取り上げることの意義があるといえる。

(2) 対象とする保育室

保育室内の環境の何が変化させられ，何が維持されているかを明らかにするために3歳児保育室を対象とした (図1参照)。

予備観察において，3歳児保育室は，子どもが過ごす時間が他の保育室よりも長く，家具や遊具などの物的環境が多いことが明らかになった。よって，保育者による変化と維持が顕著に現れると想定し，3歳児保育室を対象とした。

また，4・5歳児クラスと学年が上がるにつれて，子どもは保育室内だけでなく，園全体を使って遊ぶようになるため，保育室内での子どもの活動時間は減り，保育者が工夫を行う対象も保育室内だけではなくなると予想できる。そのため3歳児保育室内では，活動が他の年齢より長く，保育者は工夫を行う必要があるため，対象として適していると判断した。

(3) データ収集の手続き

H 幼稚園3歳児保育室において2012年11月から2か年に渡ってデータ収集を行った(表1参照)。保育者によって変化させられた環境及び維持された環境として明らかになった環境が，3歳児特有の結果であるのか，または他の年齢にも該当することなのかを検討するために，2013年度には比較対象として5歳児保育室においてもデータ収集を行った。なお，5歳児保育室の担当保育者は，前年度3歳児保育室を担当していた保育者である。

データ収集の期間は，2012年11月～2013年12月の全50回 (日) であった。

表１　【データ収集日程及び概要】

期間	回数	対象クラス	内容	時間・時間帯
[第Ⅰ期] 2012年10月～ 11月	2	3･4･5歳児	対象決定のための 予備観察	登園頃から1･2時間
[第Ⅱ期] 2012年11月～ 2013年2月	8	3歳児	保育室の写真撮影と 保育観察	登園頃から1･2時間
[第Ⅲ期] 2013年4月～ 2013年12月	40	3･5歳児	保育室の写真撮影	登園前に30分程度

表1において，データ収集期間を便宜的に3つに区分した。[第Ⅰ期] は，予備観察期であり，対象の保育室を決定する為に設けた期間である。よって，データ分析の対象には含まないこととした。[第Ⅱ期] は，2012年度3歳児保育室の本観察である。登園前の時間帯から子どもが登園し，1時間程度観察を行った。[第Ⅲ期] は2013年度の本観察であり，3歳児保育室，5歳児保育室にて観察を行った。

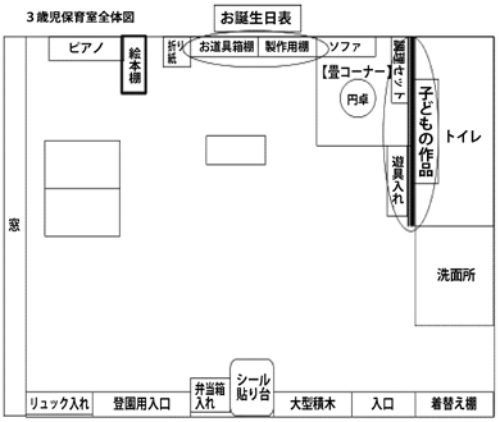


図１　【３歳児保育室全体図】

参考写真１　【壁面（子どもの作品）】

参考写真２　【壁面（お誕生日表）】

参考写真３　【絵本棚】

参考写真４　【畳コーナー】

(4) データ収集方法

データ収集方法は環境の写真撮影と，補足的に情報を収集するためのメモである。環境の変化は目で見てすぐに何が変わったかということが判断可能であるが，何が維持されるのかということは一定の期間の環境のありようを時系列に並べて見ることによって浮き彫りになるといえる。保育室内を写真撮影する際は壁面を便宜的に割り振った区切りごとに撮影した後に，絵本棚，畳コーナーの全体，コーナーの内部を撮影した。また，環境の維持は即時的な判断が難しいため，保育室内の写真をランダムに撮影し，蓄積することによって，後に何が維持されているのかを検討する材料とした。

メモは，絵本のタイトルを記録するため，及び保育観察の中で子どもが対象の物的環境にかかわっている様子を記録するために行った。

保育観察の際は，観察者としての役割以外を担わない消極的な参与の立場をとった (柴山2006)。 物的環境がどのように変化させられ，維持されるのかを検討するためには日常の保育をそのまま観察することが望ましいと考えたためである。

(5) データ分析方法

収集したデータの分析は以下の手順で行った。第一に，撮影した写真を時系列に壁面･絵本棚･畳コーナー3つの対象別に整理した。第二に，壁面では展示物，絵本棚では絵本のタイトル，畳コーナーでは家具や遊具を写真に対応させ文字記録を作成した。第三に，整理したデータを並べ，観察日が連続する2回分のデータを比較し，何がどのように変化させられ，維持されていたかを検討した。

壁面と畳コーナーの分析は上述の過程で終了したが，絵本棚については，棚の中の絵本の入れ替えについて追加の分析を行ったため，その手続きを下記に示す。

絵本棚において維持を検討する分析対象となった絵本は，2013年度最後のデータ収集時 (2013年12月) に絵本棚になかった絵本を対象とした。その理由としては，一度絵本棚に置かれてから取り除かれるまでの期間が明確なためである。データ収集期間の全回数 (日数) の中で，何回 (日) 連続で置かれていたかを記した。前の調査日と次の調査日の両方置かれていた絵本は，その間の期間も置かれ続けているものとして判断した。

次に，絵本の種類を内容によって6種類 (生き物・自然図鑑，物語絵本，昔話，音，遊びと学習，生活) に分類し，最後に，絵本の分類をそれまでのデータに照らし合わせ，置かれていた期間と種類の関連性を検討した。

Ⅲ．結果と考察

(1) 結果概要

分析の結果，①環境が変化させられ，環境の役割や意味も変化する，②環境は維持されるが役割・意味は変化する，③環境は変化させられるが役割・意味は維持される，④環境は維持され役割や意味も維持される，という4点が明らかとなった (表2)。環境の変化・維持について，保育者によって新しく取り入れられる，再構成される物理的な変化・維持と，それに伴う保育者や子どもの環境へのかかわり方や使い方などの変化・維持があることが明らかになった。

物理的な変化や維持は目で見て判断されるため,「目に見える」変化,「目に見える」維持と呼称すること

とした。他方，目で見て判断することが難しい子どもや保育者にとっての環境の意味・使い方の変化や維持を指す際は，「目に見えない」変化，「目に見えない」維持と名付けた。2種類の変化・維持は，その組み合わせによって，4種類の環境の状態があると見出された。

表２　【目に見える・目に見えない変化と維持の関係】

		目に見える	
		変化	維持
目に見える	変化	①環境が変化させられ役割や意味も変化する【変化-変化】(先行研究の成果)	②環境は維持されるが役割・意味は変化する【維持−変化】
	維持	④環境は変化させられるが役割・意味は維持される【変化−維持】	③環境は維持され役割や意味も維持される【維持−維持】(トイレ等の設備)
目に見えない			

①は，保育者によって環境が変化させられ，その環境のもつ役割や意味も変化するという特徴を有する。先行研究で明らかにされてきたような，環境の物理的な変化 (目に見える変化) によって，子どもの行動が変わったということを指す。従って，これは【目に見える変化―目に見えない変化】とした。②は，保育者によって環境は維持されるものの，その物的環境のもつ役割や意味は変化するという特徴を有し，【目に見える維持―目に見えない変化】である。③は，園舎自体の建築や，設備のように，物理的に環境が維持され，その使われ方が変わらないという特徴を有することから【目に見える維持―目に見えない維持】である。④は，環境は変化させられるが，物的環境の持つ役割や意味は維持されるという【目に見える変化―目に見えない維持】である。

物的環境における変化と維持の関係が，表2に示したことで明確となった。保育者によって保育室の環境がどのように変化させられ維持されるのかを検討する本研究の目的に即して，上記4通りの環境の状態の内，②環境は維持されるが役割・意味は変化する，及び④環境は変化させられるが役割・意味は維持される，がそれに該当する。以下では壁面・絵本棚・畳コーナーの具体的状況をもとに論じることとする。これにより，保育者が環境構成に込めたと推定されるねらいや願いが検討されると予測されたため，環境構成の内，これまであまり焦点が当てられてこなかった側面に焦点を当てることができる。

なお，①【目に見える変化―目に見えない変化】は幼稚園の絵本コーナーにおいてテーブルを増やす，絵本の置き方を工夫する，などと物的環境を変化させることによって，絵本コーナーを利用する子どもが増えたり，じっくりと絵本を読むようになったりした (山田2012) というように，これまで多くの先行研究で明らかにされてきた，環境の変化によって子どもの行動が変化する，ということに当てはまる。

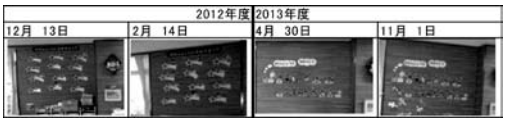
また，トイレや洗面所などの設備は，設置されたときから現在に至るまで常に同じ状態であり，使い方も同じであるため，③【目に見える維持―目に見えない維持】に当てはまるといえる。

(2) 目に見える維持―目に見えない変化

2.1壁面

壁面の展示物の中で，子どものお誕生日表が年間を通して目に見えて維持されていた。お誕生日表とは，幼稚園などの保育施設において園児たちの誕生日を祝って飾られる壁面構成の一種である (上浦2013)。これは，1年間を通して同じ壁面に展示され続けていた (表3)。すなわち，本研究においては【目に見える維持】と言える。表3には3歳児保育室の写真のみ掲載するが，5歳児保育室においても同様の結果が得られた。お誕生日表は，子ども一人一人の生まれた日を示すだけでなく，子どもに1年間の月日の流れを示すことができるものであるため，保育者によって維持されていると考えられる。

表３　【壁面：お誕生日表】



一方で，【目に見えない変化】があると考えられる。お誕生日表は，子どもが自分で「自分の誕生日を楽しみに待つ」「友達の誕生日がいつなのか確認する」など考えやすい環境となるよう保育者によって構成されており，1年間を通して，お誕生日表がもつ意味は変化していくことが予測されるためである。

2.2絵本棚

絵本棚は，子どもが自由に絵本を取り出して読むことができるように設定されている。

絵本棚では，生き物・自然図鑑が短期間で入れ替えられるのに対し，物語絵本は長期間にわたって置き続けられていた。3歳児保育室，5歳児保育室共に同様の結果が得られた。表4における総冊数は，対象の期間中，絵本棚に置かれていた絵本全ての冊数である。内，分析対象とした絵本は，置かれた期間が明確なものである。この置かれた期間が明確な絵本の冊数 (表4中においては便宜的に A と示す) の平均日数を算出した。

表4における，置かれた期間が明確な絵本(A)がどのくらいの期間平均して絵本棚に置かれていたかを示した日数は，対象の調査日数(2013年度データ収集日数)全40日中の何日間置かれていたかを示す日数である。

物語絵本は平均19日間置かれていたのに対し，生き物・自然図鑑は3歳児保育室で平均して9.7日間置かれていたことから，物語絵本が絵本棚に置かれた日数の方が明らかに長期にわたっており，【目に見える維持】であると言える。

物語絵本は，民話(例:『おおきなかぶ』)や童話(例:『おおかみとしちひきのこやぎ』)，おはなし絵本(例:『たまごにいちゃん』『ゴリラのぱんやさん』)など，季節に左右されない保育者から子どもへ向けたメッセージが含まれるため，比較的長期間維持されていたと推測できる。

表４　【絵本棚】

	総冊数	分析対象となった絵本(A)	Aが平均して絵本棚に置かれていた日数
生き物・自然図鑑	27冊	22冊	9.7日
物語絵本	52冊	35冊	19日

物語絵本は，長期にわたって置かれていたが，図鑑のように伝えたい内容が明確に示されているわけではないことから，保育者が子どもに読み聞かせる際に何を重視して読むか，またそれぞれの状況に応じて絵本の内容の受け取り方が異なると予測されるという点で，【目に見えない変化】も同時に存在すると考えられた。

2.3畳コーナー

畳コーナーでは，コーナーを構成する畳や大きな家具などの基本的なコーナーのつくりが維持されており，【目に見える維持】であった(表5，表6)。一方で5歳児保育室では子どもの遊びに合わせて畳コーナーが撤去されていた(表7)。4月24日には畳コーナーとして構成され，存在させられていたが，6月18日にはその場所に子どもが制作したプラネタリウム(大型積み木をかまくらのように重ね，外側を黒のビニールで覆っている)が置かれ，さらにその後は畳コーナーに戻されることはなかった。

表５　【畳コーナー2012年度3歳児保育室】

表６　【畳コーナー2013年度3歳児保育室】

表７　【畳コーナー2013年度5歳児保育室】

5歳児保育室では子どもの遊びに応じて畳コーナーそのものが変化させられ，コーナーの撤去に至ったが，3歳児保育室では年間を通して維持されていた。そこに3歳児特有の構成の意図があると考えられる。年度移行により担当の保育者が替わり，2012年度の3歳児保育室(表5)担任保育者と2013年度の5歳児保育室(表7)担当の保育者は同一人物であるにもかかわらず，5歳児保育室では畳コーナーを撤去し，3歳児保育室では維持という選択を取っていた。

入園したばかりの3歳児が園生活になじむ第一歩に保育室の環境があることから(上垣内2003，横山・竹内・上野・堀越2011)，畳コーナーで遊んでいなくとも，子どもたちが遊びたいとき，そこで時間を過ごしたいときに「ある」ことで，安心できる環境づくりをめざす保育者の意図が読み取れる。4･5月にはルーティンをこなす際に畳コーナーに拠点を置いて落ち着くということが見られ(淀澤2016)，時が経つにつれ，料理をして遊ぶ，友達とごっこ遊びをするなど，コーナー自体は維持されることによって，子どもが安心して新たな遊びや人とのかかわりに挑戦できるようになる，すなわち，環境そのものは【目に見える維持】でありながた，子どもにとっての環境の持つ意味は，【目に見えない変化】となっていたと考えられた。

以上より，【目に見える維持】は，【目に見えない変化】という子どもにとって，その物のもつ意味の変化があると推測された(表2の②)。

(3) 目に見える変化―目に見えない維持

3.1壁面

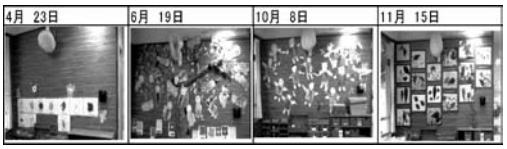
壁面の子どもの作品展示は，新たな作品が作られるたびに保育者によって貼り替えられるという変化があり，【目に見える変化】であるとわかる(表8，表9)。

一般に保育者は，壁面装飾を子どもたちと共に行っ

たり子ども達の作品を壁面に取り入れたりするという方法をとることで，壁面における展示を保育者からの一方的な提示だけではなく，共に作って共に見るという活動を期待する傾向があるとされており (幡野・山根・小田倉2009)，対象の保育室においても子どもの作品が展示されていることには，保育者のこのような期待が込められているためであると推測される。加えて，新たな作品が作られるたびに貼りかえられることによって，その期待を子どもに伝えるきっかけとなっていると考えられた。

表８　【壁面2012年度：子どもの作品】

表９　【壁面2013年度：子どもの作品】



貼り替えられる物の特徴によってどの壁面に展示するかということも多少変化するものの，基本的には同じ壁面に貼り替えられていた。同じ壁面上で変化させられることによって，子どもには自分たちの作った作品がどこにあるかが分かりやすいと考えられる。これは，子どもの作品を展示するという壁面の使われ方が維持されているため，【目に見えない維持】であるといえる。

他方，子どもの作品が新たに作られるたびに壁面の展示物が貼り替えられたり，お誕生日表が展示され続けたりするなど，壁面の用途はさまざまであるものの，どの壁面にどういった種類の展示物が展示されるかという点は維持されている。対象の保育室では，おあつまりの時に前方となる壁面にお誕生日表が展示され続け，最も面積が広い壁面には子どもの作品が展示され続けていた。これらは【目に見えない維持】と捉えられ，保育室の雰囲気の安定につながるといえる。

3.2絵本棚

物語絵本が【目に見える維持】とされていた一方で，生き物・自然図鑑は物語絵本に比べると短期間で入れ替えられており (表4参照)，【目に見える変化】である。生き物・自然図鑑は，季節に応じて入れ替えられることもあり，季節に合わせて子どもが興味を持つであろう生き物の図鑑に変わっていったと思われる。例えば，春にはチョウやバッタ，夏にはカタツムリやトマト，秋には落ち葉やサツマイモ，冬には木の一年を題材にした図鑑という移り変わり，すなわち【目に見える変化】が見られた。

絵本そのものが入れ替えられることによって，保育者は季節に沿って変化する自然を子どもに常に間接的に伝える，子どもにとっては常に興味に沿った絵本もしくは興味を喚起される絵本があるという状態が維持されていると考えられた。よって，これらは目に見えて変化させられる中でその役割は維持される，【目に見えない維持】であると明らかになった。

3.3畳コーナー

畳コーナーにおいては，コーナー内の遊具は，保育者の手作りのものが増える等，変化が見られた。例えば，栗とビーズが入ったビンや，ビニールで作ったイチゴが子どもの遊びに合わせて用意されていた。これは，【目に見える変化】と捉えられる。上述の絵本棚における生き物・自然図鑑と同様に，季節に合わせて保育者が変化させている遊具であると考えられる。常に子どもの興味に沿った遊具があるという状態が維持されていたため，【目に見えない維持】であると考えた。

以上より，【目に見える維持】には【目に見えない変化】という側面があるということが明らかになり，【目に見える変化】には，【目に見えない維持】という側面があるということが明らかとなった (表2の④)。

Ⅳ．総合考察と今後の課題

本研究では，保育者によって保育室の環境構成の何が変化させられ維持されるのか，それらの環境はどのように変化させられ，維持されるのかということを検討した。

従来の研究では環境をどのように変えるか，またそれによって子どもにどのような影響を与えるかということが主に検討されてきており，変化させられる環境の周囲にある維持される環境については，十分検討されてこなかった。しかし，本研究により，壁面，絵本棚，畳コーナーという3つの対象を通して，まず環境構成において物理的に維持されるという状態があることが確認された。加えて，環境の変化や維持に関して【目に見える維持 - 目に見えない変化】，【目に見える変化 - 目に見えない維持】という変化や維持の種類が示され，その詳細が明らかとなった。これにより，変化とも維持とも捉えられると検討され，変化と維持は相互関連しているということが示唆された。

本研究を通して【目に見える維持】は，保育者にとっ

ては意識するまでもない，当たり前の状態として捉えられる点と，意図があっても従来の研究では検討されてこなかったと明らかにされた。お誕生日表，物語絵本，3歳児保育室における畳コーナーは，変化させられる環境との比較から，維持する環境として意図されていたかは不明であるものの，変化も維持も含めた環境構成の一部として意識はされており，保育者のねらいや願いが子どもに伝えられていたといえる。よって，必ずしも目に見えて再構成することが子どもの心や活動の流れに寄り添うことである (文部科学省2008) とは言えないのである。

本研究の課題は，次の3点である。第一に，維持される環境が子どもの心情や活動の流れに即しているのかについて十分検討することができなかった。

第二に, 維持とみなす期間の妥当性についてである。年度移行，担当保育者の変更等から，環境構成における維持を検討する際，維持とみなす期間の長さには差があった。

第三に，保育者の環境の維持に関する意図についての検討である。本研究では写真撮影と観察によってデータ収集を行った。これらのデータから保育者の環境構成への意図も検討したものの，さらに確かな意図に迫るためには保育者へのインタビュー調査が必要だと考えられる。

【引用文献】

幡野由理・山根直人・小田倉泉 (2009) 保育環境における壁面装飾の意義1―幼稚園教員・保育士への質問紙調査から―．埼玉大学紀要教育学部．第58巻．第2号．171－181

平賀伸夫・平野あゆみ (2005) 保育におけるラベル表示の効果に関する研究 . 愛知教育大学教育実践総合センター紀要 . 第9号 .203－209

平嶋早織 (2013) ごっこあそびの楽しさを共有することで変化したＫの友だちとの関係―ままごとコーナーでの楽しさの共有を土台に―. 季刊保育問題研究 .260号 .134－137

上垣内伸子 (2003) 心の拠り所と保育者の役割 . 発達 .96号 . ミネルヴァ書房 .25-28

上浦千津子 (2013) お誕生日表の作成と鑑賞による造形の学び . 中国学園紀要 . 第13号 .157－166

厚生労働省 (2008) 保育所保育指針解説書平成20年度版．フレーベル館．25-27

文部科学省 (2008) 幼稚園教育要領解説平成20年度版．フレーベル館．25-29

西本雅人・今井正次・木下誠一 (2006) 保育プログラムに伴うコーナー設定の一年間の変化　保育者による空間設定からみる保育室計画に関する研究．日本建築学会計画系論文集．第601号．47-55

小川博久 (2000) 保育援助論．スペース新社保育研究室．46－69

柴山真琴 (2006) 子どもエスノグラフィー入門　技法の基礎から活用まで．新曜社．46-49

汐見稔幸・村上博文・松永静子・保坂佳一・志村洋子 (2012) 乳児保育室の空間構成と“子どもの行為及び保育者の意識”の変容．保育学研究．第50巻．第3号．298-308

高橋美恵子・斎藤正典・岩田信也・関口準 (1994)3歳児のままごと遊び (1) ままごとコーナーを設置して . 日本保育学会大会研究論文集 . 第47巻 .220-221

山田恵美 (2011) 保育における空間構成と活動の発展的相互対応―アクションリサーチによる絵本コーナーの検討―．保育学研究．第49巻．第3号．20-28

山田恵美 (2012) 幼児の活動の展開を支える保育環境―絵本コーナー内の場と読み方―. 保育学研究．第50巻 . 第3号 .29-41

淀澤真帆 (2016)「維持される」物的環境に関する研究―保育室で過ごす子どもに焦点を当てて―. 広島大学教育学研究科修士論文 . 未刊行

横山真貴子・竹内範子・上野由利子・堀越紀香 (2011) 新たな幼児教育の創出に向けて，幼稚園教育の成果を問う試み―幼稚園の3歳児保育の内容に着目して―. 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 .(19).327-335

由田新 . 第3章　環境を通して行う保育 . 師岡章　編著 (2007) 保育指導法　幼児のための保育・教育の方法 同文書院 .43-60

【謝辞】

研究にご協力くださいました幼稚園の教職員のみなさま及び園児のみなさまに深く御礼申し上げます。また，論文執筆に当たりご指導頂きました広島大学中坪史典准教授に心より感謝申し上げます。

（主任指導教員　中坪史典）